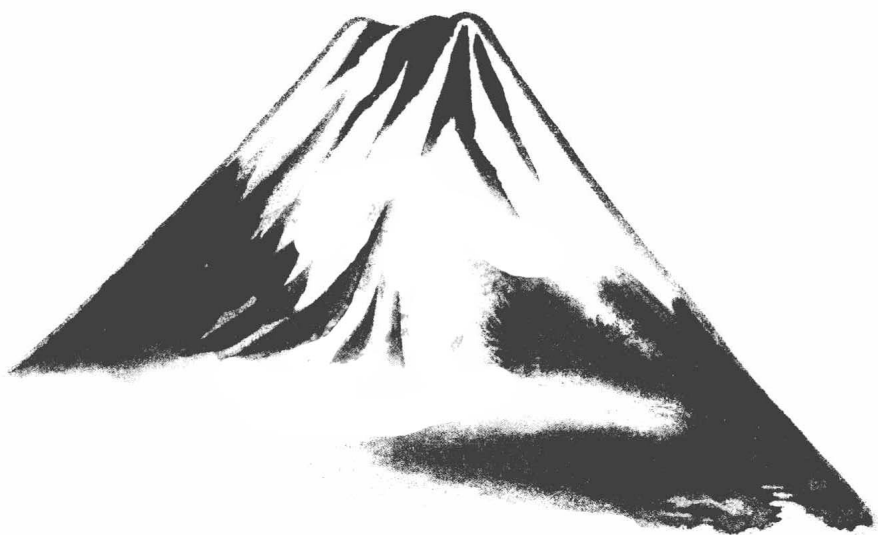


詩集

知恵の火

知恵の尖

下間美津江



著 者 略 歴

明治37年7月 徳島県三好郡三加茂町に西内義教四女として生れる。

県立辻高（前校名実科高女）卒業、東京女子音体学校卒業、帝国女子専門国文科中退。

大正12年 母校校長の高津半造先生の仲人にて、千葉県人、文部省学校衛生官補下間佐吉と結婚、故人佐吉は教育者として終える。二男一女あり。
故人の著書 生理解剖、学校体育、年令に適應せる遊戲教育、水泳教授要録。

歌 歴 昭和14年・久遠の光、昭和35年・吉野川剣山現世
昭和41年・歌集母のことば、昭和51年・詩集日本の人花、昭和52年・詩集日本の人宝、昭和53年・詩集不滅のころ、昭和54年・詩集富士に向って
故人佐吉母校千葉県吉野小学校に歌碑、母校徳島県三加茂町三庄小学校に詩碑あり。

しも つま み つ え
下 間 美 津 江 （旧姓 西 内）

昭和五十五年六月八日発行

詩 集 知 恵 の 炎 定価 千五百円

著 者 222 横浜市港北区篠原東一丁目四一〇

下 間 美 津 江

電話 〇四五―四三二―八四六二

発 行 236 横浜市金沢区瀬戸五二一八〇二

ハ マ 短 歌 社

電話 〇四五―七八二―六八七五

印 刷 231 横浜市中区伊勢佐木町三一九五

イセガキ町センタービル

大 生 印 刷 所

電話 〇四五―二五一―〇四七三

序 文

天と地の中に、たいぜんと人は立っている。その人々の知恵の恩恵と活用で人類は繁栄の道をたどりつつ生活している。各人知恵あるが故に世相も正しく判断出来、又もろもろの愛を知る。人の愛、天地自然の恩恵、神仏の慈愛、家家にいます先祖の靈愛。靈愛は靈界人ならではの、アンテナを必要としない靈波を地上の人に送り、正しい道に導いている。

なお学び、知恵を養い、人類の繁栄に役立てる為に使いたい。人が、日常の生活には満足であるが、知

恵を養うのに満足する日はないように思う。知恵の力は偉大かと。

鈴木孝一先生に御指導を頂き発刊出来ました。感謝いたします。

昭和五十五年四月三日

著者

目 次

純心……………	七
春風……………	九
あの方この方……………	一一
知恵	
(一) 一生の柱……………	一三
(二) 病人へ良薬……………	二〇
(三) 知恵ある外交……………	二三
(四) 教育の構想……………	二七
心の力……………	三三
文化交流(月光)……………	三九
新鮮な感動(日光)……………	四五
岩	

(一)むろと岬の岩……………	五〇
(二)佐渡せんかく湾のついたて岩……………	五四
(三)泉水……………	五六
(四)盆景……………	五九
人対人……………	六二
笑顔（娘節子へ音信）……………	七二
生命以外に富はない……………	七八
折り返し点……………	八六
一言一句……………	九二
さやかに人が立っている……………	一〇二

純心

富士をあおげば

たましいが 肉体から分離して

幼児期の純心さが戻る

富士は どこから見ても

偉風はどうとうとして美しい

あの美しさに 人間愛が湧きあがる

富士が

雪をはおって 威厳ひとしお

人が年を重ねれば重ねるほど

神仏の化身のようなおこないになっていく

富士が

朝日に照らされ夕陽にかがやく

雪肌の神秘さ

人は人の情けに

神秘的な涙を流す

春風

清純な人

春風のような

お母さん

暖かな春風で

寒梅が うすくれないに咲きそめた

ほほ笑みの

お母さんと

そつと 呼んでみた

春風が 黒土の頭なでなで

チュウリップを 咲かしていた

お母さん

その呼ぶ声の ひろがりは

町町に

都大路に人花を咲かしている

夏の日も 冬の日も 晴やかな

春風を 吹かして

あの方この方

浮き 沈み

ある人の世に

誠実で

あざやかな行動力ある

あの方 この方を

思い浮かべて 心はれやか

年を重ねても

精神のぜい肉をもたず

有りのまま

天真らんまんな人をみて

周辺の人も 天真らんまんになってゆく

自分の疲れも わづらわしさも

いとわずに

他人につくしている愛ある人をみて

はればれとした

人道がみつかった

知恵 (一) 一生の柱

世界の民族の中で

知恵の

偉れているのは

ユダヤ人 そのユダヤ人が

小学校に入ると

ノートや 本の上に

さとうやはちみつを のせてなめさせ

「勉強とは

甘くて たのしいもの
と
印象づける」という

知恵は人間一生の柱

ユダヤ人の財産はちえ

ユダヤ人の人生最大のたからはちえ
と

また旧約聖書に